

車いす体験から学んだこと

小 五

ぼくは、国語辞典で「人権」を引いてみました。するとそこには、「人が生まれながらにもっている自由、平等などの権利」と書かれていました。

人権について考えたとき、四年生のときに学習した車いす体験を思い出しました。車いす体験で、ぼくは、しょう降口から体育館へ行きました。そのときは後ろから友達におしてもらいましたが、車いす体験をした後、もし自分が車いす生活になったら何ができないのかを考えてみました。

ぼくの家族は、みんな二階でねています。車いすになると朝起きて一階に

下りてくることができなくなります。その後、着がえができなかったり、学校に行くときに荷物をせ負えなかったりしてしまいます。また、学校に着いてからも、階段を上って教室に行けなかったり、せまい通路を通れなかったりするなどたくさんのが不自由になってしまいます。ほかにも自転車に乗ることや、習い事などもできなくなってしまうます。

このように、車いすでの生活について考えてみると、身の回りには不自由なことがたくさんあることが分かりました。

しかし、ぼくたちの周りには、車いすを使って生活している人がたくさんいます。車いすを使って生活している人たちは、ふだんから不自由な生活を

しているのだと思います。そこで、ぼくは車いす体験で学んだことを生かして、これから生活していきたいと思えます。

例えば、道のだん差をこえられず困っている車いすの人や、混雑した電車の中で困っている車いすの人などに、「何かできることはありませんか。」

と声をかけることです。困っている車いすの人がいたら、積極的に声をかけて助けることができるようにしていきたいです。また車いすの人の他にも、不自由な生活を送っている人がいると思います。そんな人たちにも声をかけて助けることができるようにしていきたいです。